

公立大学法人神戸市看護大学学長の業績評価書

2022年10月11日

公立大学法人神戸市看護大学学長選考会議

南 裕子学長について、現任期の最終年度における業績評価を行いましたので、その結果を公表します。

1. 評価方法

所信表明の達成状況及び中期計画の達成状況、並びに学長から提出された自己評価書を業績評価の対象とし、学長に対してヒアリングを行った。教育・研究・社会貢献・管理運営の4項目について、S～Cの4段階評価を行う。

評価	評価基準
S	特筆すべき業績をあげている/非常に優れている
A	期待する業績をあげている/良好である
B	期待する業績を下回っている/やや努力を要する
C	期待する業績を大幅に下回っている/努力を要する

2. 評価結果

(1) 教育【評価：S】

地元創成看護学の導入による新たなカリキュラムの構築や、緊急事態宣言の発令に伴う遠隔授業への移行などにおいて、全学的なリーダーシップを発揮された。

また、社会人・留学生入試をはじめ、大学院推薦入試を新設するなど入試改革に着手するとともに、WEB上でのオープンキャンパスの実施や、過去の受験者データの分析に基づいた高校訪問など、より多くの受験生を確保するための取り組みを展開した。さらに、看護師・保健師・助産師の国家試験において、全国平均を上回る高い合格率を維持するとともに、市内就職促進策を検討するなど、就職・キャリア支援にも積極的に取り組まれ、入口戦略・出口戦略のそれぞれにおいて効果を上げていると評価できる。

(2) 研究【評価：A】

研究助成金に関する情報提供を学内に積極的に行うなど、外部資金の獲得に向けて尽力された。また、学長自ら科研費を獲得し、科研費獲得に至らなかった研究に対しては学長裁量経費による研究費助成を行った。しかし、教員は教育や社会貢献等を重視し、研究に集中する環境が作れず、研究成果の輩出が乏しい状況になっている。教員の研究マインドを変える仕組みの構築等が今後の課題。

(3) 社会貢献【評価：S】

いちかんダイバーシティ看護開発センターを立ち上げ、センター長に自ら就任され、これまで縦割りだった教員組織に横断的な取り組みが可能となるような仕組みを取り入れられたことは、高く評価できる。

また、兵庫県や神戸市の新型コロナウイルス感染症電話相談や軽症者宿泊療養施設、保健所の積極的疫学調査などへの教職員による全学的な支援は、神戸市のコロナ対策の中でも重要な役割を果たした。結果として、地域に貢献する大学としてのブランド力向上にも寄与していると考えられ、学長のリーダーシップのもとに実施された功績は大きい。

国際交流事業が乏しいものの、コロナ禍で制限された条件のためやむを得ない。今後の積極的な国際交流に期待する。

(4) 管理運営【評価：A】

限られた事務局体制や予算の中で、運営調整会議で迅速に情報共有を図り、本学初の特任教員の採用など新たな人事システムを軌道に乗せるとともに、教授会及び各種委員会の役割を見直すなど、より機動的で効率的な組織運営体制の構築に取り組みられた。

コロナ禍でのストレスや社会貢献の過重等による教職員の健康問題や、教員活動評価の処遇への反映などが課題。

空前のコロナ禍も、理事長と意思疎通を図り、学生も含めた全学の情報共有と感染症対策会議における迅速な対応方針の決定により乗り越え、神戸市民並びに神戸市にとっての本学の存在意義は格段に増したといえる。

3. その他（就任時における所信表明の達成状況）

法人化後に初選考された学長として、就任後3か月に前代未聞のコロナ禍に遭遇したにもかかわらず、教職員を取りまとめ、自立的経営の実践、市民に開かれた大学の実現、コロナ禍での多大な地域貢献など、多くの業績を達成された。コロナ禍で実現出来なかった「看護教育・研究の機関の発展」が今後の課題。